



フィリピン台風ヨランダ被災地への復旧・復興支援 ～緊急段階からのシームレスな支援を目指して～ その1

2017年3月17日

独立行政法人国際協力機構
社会基盤・平和構築部 部長
中村 明

独立行政法人 国際協力機構

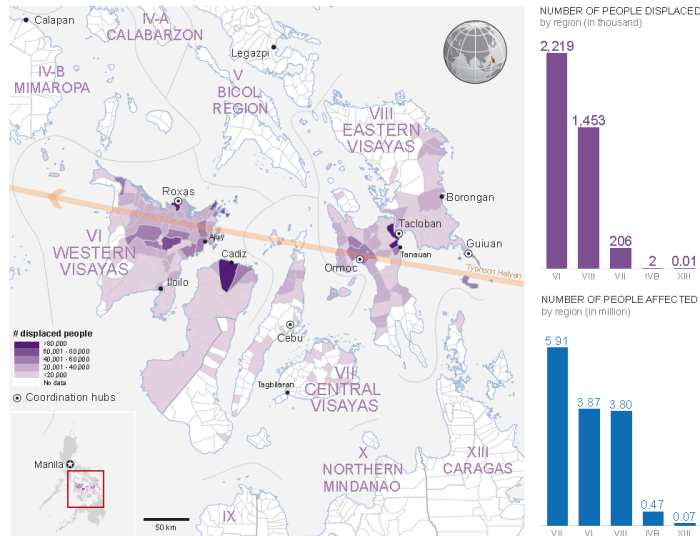


フィリピン共和国





台風の経路と被災地図



出典: Philippines: Typhoon Haiyan – Humanitarian Snapshot (as of 12 Dec 2013 – 1800 UTC+8)

2



派遣の経緯と初動対応

- 災害情報の早期入手と早期の動き
11月3日太平洋で台風発生。
JDR事務局はその時点から動向をチェック。
- 国連災害評価調整チーム(UNDAC)への日本からの派遣
11月5日21時OCHAから打診。6日に事務局として派遣決定。
勝部氏7日出発。全世界から招集された8名のうちの一人
(台風通過前のフィリピン入り)。のちに追加招集で日本人1名追加派遣。
【1災害に2名の日本人派遣は初】
- 調査チームの派遣
11月10日フィリピン政府から要請提出。
同日、外務省、JICAからそれぞれ1名派遣。





タクロバン空港の様子



タクロバン近辺の医療支援チーム状況

レイテ島では12月7日時点で国外から111の医療チーム派遣。
タクロバンでは、うち31チームが活動。

二国間支援	英国、オーストラリア、韓国、中国、スペイン、マレーシア、スリランカ、日本、 計8か国
NGO	国境なき医師団（フランス）、Rescue24（米）、Global Medic（加）、Humedica（独）等 計21チーム

出典：ヘルス・クラスター登録（Region VIII）（12月7日時点）

※その他WHO、UNICEFなどの国際機関も活動展開（OCHA 3W）



国際緊急援助隊医療チームの活動

<概要>

- 1982年にJICA内に事務局を設置して発足
- 日本全国の病院等に勤務する医療従事者等登録者から選抜
(平成26年1月現在の登録者数；1,140名
うち、医師328名、看護師494名、薬剤師55名、医療調整263名)
- 今回の3次隊までの派遣を含め、計63回の派遣実績
- 災害を想定した独自の診療ガイドラインを作成・運用
- 災害医療を中心とした包括的な研修コースを定期的の実施
(医療の専門研修、ロジスティック、ミッションマネジメントなど)

<派遣>

- 一度の派遣期間2週間（継続支援の必要性がある場合は複数次隊派遣）
- 1日100名から200名程度を診療
- 合計約2,000名の患者に対応できる医療資機材（約4～5トン）を携行
- 派遣決定後、一斉連絡して隊員を募集し、チームを編成

6





8





現地での医療活動

医療チーム全体

派遣期間：11月11日～12月12日（32日間）

派遣団員数：81名

累計診療患者数：3297名

チーム	現地診療期間	活動場所	診察人数	主な疾患
1次隊 27名	11月15～21日	リサール公園 バサイ市地域病院	779名 90名 計986名	外傷、呼吸器系 感染症、小児系 （脱水症等）
2次隊 30名	11月22～30日	リサール公園 バサイ市地域病院 タクロバン・シティ・ ホスピタル 周辺村落巡回診療	654名 335名 55名 142名 計1073名	外傷、急性呼吸 器系疾患、下痢 症等
3次隊 24名	12月1～9日	リサール公園 周辺村落巡回診療	660名 582名 計1249名	急性呼吸器系疾 患、皮膚疾患、 筋骨格系、慢性 疾患

10



被災地の様子

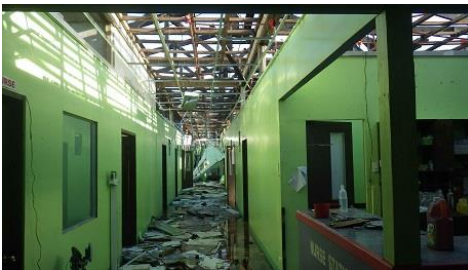




1 次隊の活動の様子



バサイ市地域病院の様子(サマル島)





2次隊到着時の被災地の様子



2次隊の活動の様子





タクロバン・シティ・ホスピタル



3次隊の活動の様子





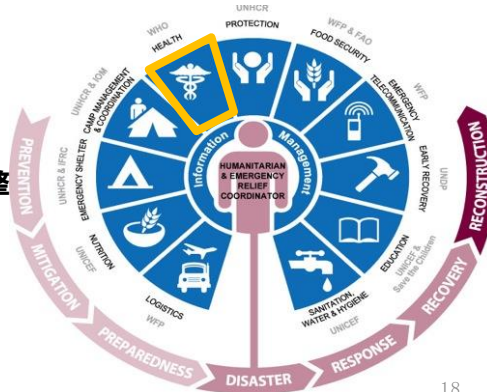
活動の成果

・最速級の診療開始

・クラスターミーティングや保健省との当初からの連携

※11クラスター

- ・水と衛生
- ・教育
- ・早期復旧
- ・緊急通信
- ・食糧保全
- ・保護
- ・保健
- ・キャンプ運営及び調整
- ・緊急シェルター
- ・栄養
- ・輸送



18



3. 活動の成果(続き)

X線検査、臨床検査機材の整備、高い技術



患者の心に寄り添う診療



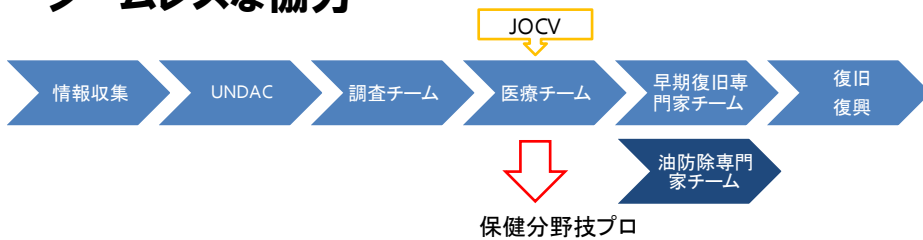


活動の成果(続き)

東日本大震災の経験・教訓を生かした巡回診療における公衆衛生への対応



シームレスな協力



20



試行錯誤と今後の課題

ロジスティックス(後方支援含む)の重要性

- ・ 自衛隊C130 輸送機によるマニラ⇄タクロバンの1、2次隊輸送
- ・ オーストラリアとの連携協議
- ・ 事務所等バックアップ体制



オールJICAとしての取り組みの恒常化

21



医療チーム以外の緊急援助

1. 緊急援助物資供与

2. 専門家チーム（早期復旧）

- ・ 派遣期間：11月26日～12月19日（予定）
- ・ 派遣人数：国土交通省、独立行政法人水資源機構、JICAから派遣。
6名が1次隊として26日に出発し、以降も順次派遣。
- ・ 派遣目的：フィリピン政府が実施する災害状況の評価、復興計画基本方針および今後の防災計画案等に対する助言・指導、及び災害評価。



3. 専門家チーム（油防除）

- ・ 派遣期間：12月4日～13日
- ・ 派遣人数：5名(海上保安庁4名、JICA職員1名)
- ・ 活動内容：油流出状況の調査、フィリピン政府が策定する油防除計画に対する技術的な指導・助言。現地作業員による油防除作業に対する技術的な指導・助言



22



緊急援助物資供与

供与物品・数量（6,000万円相当）

- ・ テント(家族用) 500張
 - ・ プラスチックシート 620巻（1巻60m）
 - ・ スリーピングパッド 2,000枚
 - ・ 浄水器 20台
 - ・ 発電機(コードリール付) 20台
 - ・ ペットボトル 約70,000本
- シンガポールとドバイの備蓄倉庫から空路輸送、フィリピン国内での調達
 - 17日からバサイ、オルモック、タナウアン、タクロバン、サン・イシドロ、パロ、ギアンの7自治体で配布

23



物資配布の様子



左上: ペットボトル、水を受取った被災者
 右上: プラスチックシートの配布
 左: テントの設営

24



まとめ

- 国際協調
 - 国際社会の力を結集するための調整機能(UNDAC、クラスターアプローチの活性化)
 - 今回の経験を踏まえ、加速化が予想されるFMT(現在EMT)の議論(ブラクティカルにすることが肝要)
- ロジ面を含む総合的マネジメント
 - 輸送、通信、物資調達などのロジ面の重要性、総合的能力発揮のための医療と非医療の連携と全体のマネジメントの重要性(平時の準備・研修・訓練、民軍連携など)
- 社会的弱者
 - 「災害により、さらに弱者となるという構図にどのように対処するか？」
 - 緊急援助から復旧・復興のステージへのスムーズな橋渡し(シームレスな支援へ)
- 災害公衆衛生
 - 災害により、避難民、準避難民的生活を中長期的に強いられる被災者が大量に発生する状況下、急性期までの対応を主な使命とする緊急援助隊が災害公衆衛生の初期の対応にどこまで、どのように関与すべきなのか？(JDRの新たな課題)

究極的な課題として

「レジリエントな社会の構築のために我々は何をすべきか？」

25



JICAのホームページに台風「ヨランダ（ハイヤン）」緊急援助オペレーションの総括を掲載しています。

http://www.jica.go.jp/topics/scene/20140214_01.html